

1993.08.19

## 平安京跡穀倉院推定地

(財)京都市埋蔵文化財研究所

### 1 調査の概要

京都市中京区西ノ京星ヶ池町は、平安京穀倉院に推定される地である。ここに二条駅地区土地区画整理事業により道路が新設されることになり、敷設工事に先立って埋蔵文化財の発掘調査が実施されることになった。

発掘調査は、京都市埋蔵文化財調査センターの指導に従って(財)京都市埋蔵文化財研究所が実施した。

### 2 調査経過

発掘調査は道路予定地内に幅5mの細長いトレンチ3本(長さ42m、44m、65m)、幅1.5mのトレンチ1本(長さ45m)を設定した。調査は、5月10日から重機による掘削を開始した。

今回の調査では、平安時代の溝・土壇・柱穴、中世(鎌倉～室町)の土壇・柱穴、江戸時代の井戸・土壇などを検出した。

**平安時代の溝** 1号トレンチで南北方向の溝16を、3・4号トレンチで東西方向の溝21を検出した。溝からは多量の瓦類とともに12世紀の土師器皿が少量出土した。

**平安時代の柱穴** 4号トレンチで67・68・70・71・75を検出した。70・71からは10世紀の土師器が出土した。

### まとめ

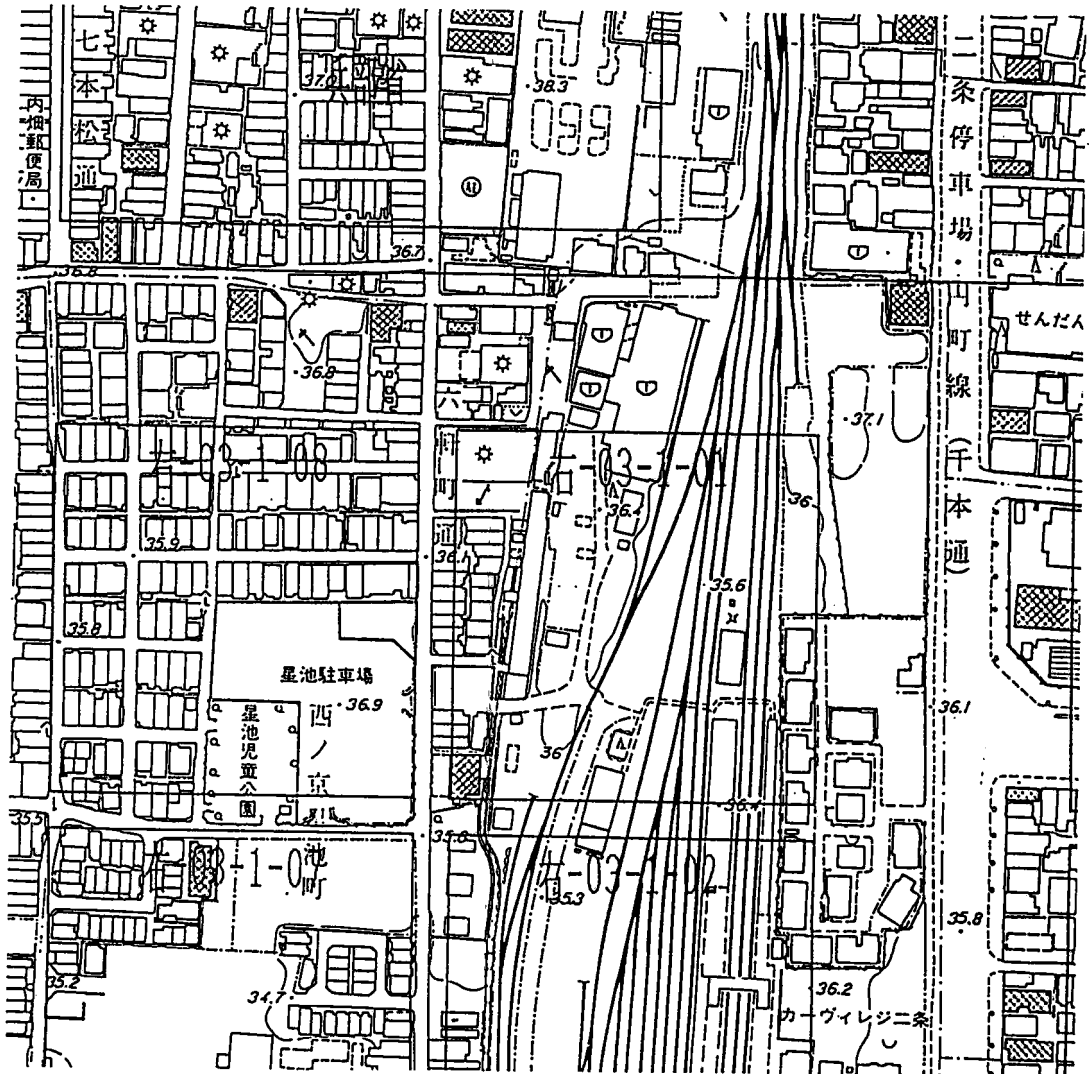
今回の調査で検出した平安時代の柱穴67・67・70・71・75、A(公園内工事立会調査で確認)は建物を形成すると思われるが、調査地外へ延びている可能性がない。規模などについては不明である。また、溝16・21は、その延長方向や埋土の状態、遺物の出土状況などから、接続するものと考えられる。

今回敷地の一部に平安時代の建物跡を検出したが、全容を明らかにすることはできなかった。

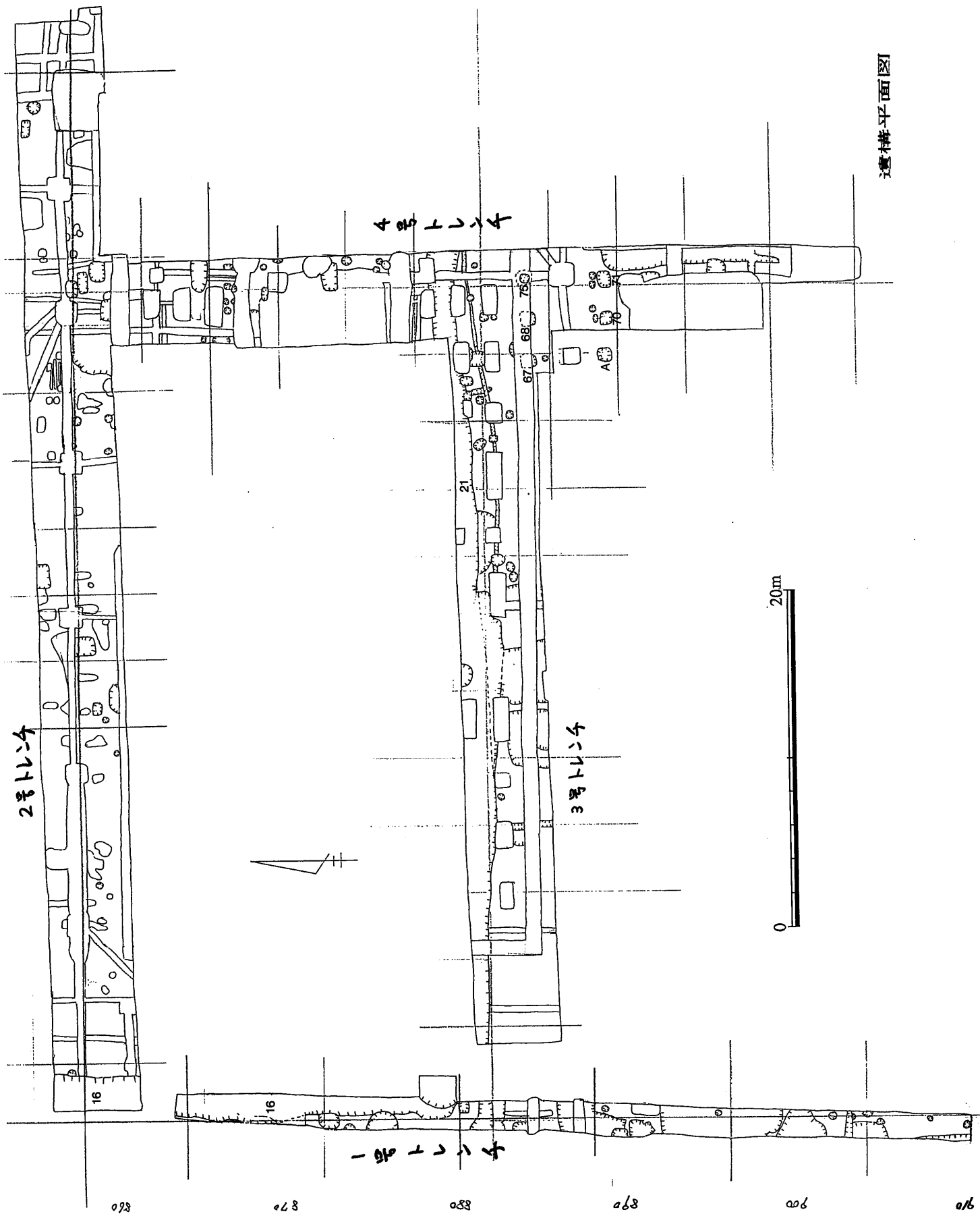
### 穀倉院（こくそういん）について

平安時代平安京の穀倉院が二条の南、朱雀の西の地にあつて畿内諸国の産物を納めていた。穀倉院は『拾芥抄』によれば「二条南朱雀西、在大学西」の方二町に所在したとされるが、『拾芥抄』西京図によれば皇嘉門大路東、二条大路南の南北二町を穀倉院としている。後者に従えば西ノ京星ヶ池町のほぼ全域と西ノ京永本町の東側一部を含んだ地域に推定できる。

また、この地は近世に至るまで集落はなかつた。寛政10年（1798）頃まで集落を形成せず、町方に居住する農民が出作していた。



調査位置図



遷構平面図